

「本当の部活」

萩原北中学校三年 船坂 幸多郎

「本当の部活がしたい。」これは、僕が部活動の時間に感じたことです。

皆さんは「部活動の地域移行」という言葉を知っていますか？地域移行とは、部活動を学校から地域単位で行う仕組みにすることです。これにより、教員の負担軽減や、人数が足りず行えなかった部活ができるようになるなどの利点があります。

僕の所属したトレーニング部では、市外で活動する生徒や学校でチームを組むことのできない競技の生徒が、平日は基礎体力を向上させるためのトレーニングと、個人練習を行います。そして、休日には他校の生徒と合同で練習をします。

僕は剣道部に入りたいかったのですが、学校に剣道部がありませんでした。そこで、トレーニング部に入部し、夜練や休日の部活動に参加させてもらう形で活動していました。そのため、一週間の部活動の中で、十分に剣道の練習量を確保することができませんでした。僕は部活時間にたくさん剣道を練習したい。

他校の生徒は、場所や時間、指導者を確保できる環境で練習しています。だから、実力に差が開く一方です。その差を家での自主練や、一回一回の質の高い練習で補えばよいのですが、それは他校の生徒も同じです。では、なぜトレーニング部という部活があるのでしょうか。それは、自分の学校だけではチームが組めない中、平日でも自分の競技に役に立つトレーニングをできるようにしよう、という願いから作られたと聞きました。学校内でチームが組めない程、生徒の数が減っていることが、原因であると言えます。

総務省の出した資料によると、下呂市の現在の小中学生の生徒数は約二千六百人です。十年後には二千人をきり、二十年後の二〇四五年には、今の半分の数になる見通しが立っています。僕の住む地域では、季節ごとに地域おこしの行事が行われていますが、少子化により、年々活気がなくなってきました。

これは、下呂市だけの問題ではありません。全国各地で、このような少子化の傾向にあり、全国で毎年四百五十もの教育施設が閉鎖している状況にあります。少子化に合わせて、合同部活になったり、廃部になったりする部活動も多くあります。僕のように、「部活の環境が十分ではない」や、「そもそもやりたい部活が無くてできない」と思う人も数多くいるはずです。

僕が家で部活の環境に対する思いを話していると、母が言いました。「もはや、子どもの少ない学校では、部活が成り立たない。」僕はこの言葉を聞いて、悔しさが半分、共感してしまう気持ちが半分と、複雑な心情でした。

子どもの数が多く、部活の人数も充実していた母の世代と比べ、少子化が止められない近年は、部活に関して、いろいろと考えなくてはならないことができています。

では、少子化が進んだ地域の中で、僕たち中学生は何ができるのでしょうか。僕は、今年の春にトレーニング部を辞めました。学校の部活動の時間は、下校をして勉強に取り組み、夜に学校の施設を借りて、剣道の練習に打ち込むようにしました。環境を変えた結果、部活動の時間に勉強をしたり、夜には内容の濃い練習をしたりすることができ、勉強と部活の両立ができました。

地域の少子化が進み、いろいろと課題がある環境であっても、子どもが自ら考えスポーツをする。このように、自分で考えて行動することが大事だと考えます。学校で部活をしなくても、やりたいスポーツをする選択肢はたくさんあります。また、それを応援してくださる保護者や指導者への感謝の気持ちも忘れてはいけません。少子化が進む中、「やりたい」「やってみたい」という挑戦心を抱くみなさんも、諦めずに自信をもって頑張っていきましょう。また、周りの人たちも、応援をお願いします。誰もが「本当の部活」をするために。